
論文概要

●研究成果物

論文タイトル 大学生のキャッシュレス決済に関する計量分析
著者 渡辺千夏良（大阪大学大学院経済学研究科）
谷崎久志（大阪大学大学院経済学研究科）

●論文要旨

2019年に消費者庁は、全国の大学生を対象として「大学生のキャッシュレス決済に関するアンケート調査」を実施した。アンケートの調査項目は個人属性に関する質問、日々の生活に関する質問、キャッシュレス決済に関する利用状況・考え方・トラブルについての質問などで、有効回答者数は4,783人であった。本稿では、このアンケート調査の個票データを用いて、大学生の(i)キャッシュレス決済の現状の利用頻度、(ii)キャッシュレス決済を今後もっと増やしたいと思うかどうか、(iii)キャッシュレス決済に関するトラブル、について実証分析を行った。

結果として、キャッシュレス決済の利用頻度の現状と今後について、①キャッシュレス決済の現状の利用頻度、今後もっと利用しようと考えているかは男女差がある、②新生入生（大学1年生）はキャッシュレス決済の利用頻度は、上級生と比べて少ない、③実家暮らしの大学生は、キャッシュレス決済の利用頻度が少ない、④買い物時にストレスを感じる大学生、キャッシュレス決済に満足な大学生、キャッシュレス決済にメリットを感じている大学生は、キャッシュレス決済を日常的に利用し、今後もキャッシュレス決済の利用を増やそうとしている、⑤キャッシュレス決済にデメリットを感じている大学生は、キャッシュレス決済は日常的にも、今後も利用しようとはしない、という結果が得られた。また、キャッシュレス決済に関するトラブルについては、述べるまでもないが、⑥キャッシュレス決済を利用する機会が増加（減少）すれば、キャッシュレス決済に関するトラブルも増加（減少）する。さらに、キャッシュレス化を促進させるためには、⑦支払手続をより簡単化・迅速化、割引・特典をより充実することによって、キャッシュレス決済の利用頻度を増加させることができる、⑧個人情報流出等のセキュリティの強化、トラブル時の補償対応等の充実など、利用者側の不安の払拭に努めることによってキャッシュレス決済の今後の利用頻度を増加させることができる、という結論が得られた。

●論文の内容に関する御問合せ先

谷崎久志 (tanizaki*econ.osaka-u.ac.jp)

上記アドレスの*を@に変えてください。